

過去を正解にしてい

キッセイ薬品工業株式会社 MR
ヴァイオリニスト

嶋田 雄紀 氏 (高校66期)



東京都立川市出身。
5歳よりヴァイオリンを始める。
一浪の末、信州大学経済学部経済学科に入学。
2015年:大学の合唱サークル団員として小澤征爾の指揮で第九を歌う。
2017年:大学のオーケストラサークルではコンサートマスターとしてサントリーホール(東京・赤坂)での特別公演を開催。
2019年:キッセイ薬品工業(株)にMR職として新卒入社。初任地は大阪市。
2020年:Youtubeチャンネルを開設。
2021年:「題名のない音楽会」へ出演。
2022年:信州アルプス交響楽団を主宰。

■立高時代

私が高校生になった2011年は、当時の65分授業×5コマの時間割で土曜日授業一切なしの2学期制という体制が変貌してしまう過渡期で、管理職側へ計画変更と説明を求める抗議集会が開かれたり、個人的に楽しみにしていた臨海教室が中止となったり、思い出深い入学年度でした。毎年の合唱祭では指揮者をやったり、演コンではキャストをやり、文化祭では有志音楽で合唱と個人発表の出し物をしたり、勉強はあんまりだったり、。部活に入らず、外部のジュニアオーケストラをやったり、クラシックのCDを2000枚以上聴きまくったり、燃焼効率の良いストーブを活用した環境負荷の少ない暖房システムやマイクロ発電所が実現しないかと試作機をいくつか作ってました。

■これまで

大学入試がうまくいかず悩んだ経験から、過去の選択や結果はもう事実として固定化されているのでどうしようもない、そしてそれは単純に成功や失敗に分類されるのではなく、未来に残された分かれ道として失敗として処理することになるか成功として処理することになるか、どちらかなのだと考えるようになりました。大学生活や就職で良い思いができれば高校での不勉強や一浪の末の信州大学入学という過去が成功になるかな、といった具合です。高校の部活で室内楽部に入らなかったことは自分の腕試しの機会や人脈などのチャンスの逸失ととらえ、いわば失敗と処理したので、大学のオーケストラサークルでは主導的な立場に立ち全力投球してみることになりました。高校時代の失敗の反動で今いい思いをしているのであれば、メタ的に考えて高校時代の選択は正解です笑。

コロナ禍も起きてしまったことですし、自分にとってこの環境変化が正解だったと思えるよう行動するようになりました。例えばステイホーム中に1人でできる多重録音アンサンブル作品を「独り弦楽四重奏」として発信するYoutubeを始めたら、公開動画を通じて人脈やチャンスが広がったり、演奏技術向上や収録慣れのおかげでテレビ番組「題名のない音楽会」の「題名プロ塾」への映像審査にも合格して葉加瀬太郎氏のレクチャーを受け共演のチャンスを得たり。アフターコロナの文化事業「大合唱2023」という事で長野県大町市のプロジェクトの話が舞い込みオーケストラを立ち上げることになったのもコロナのおかげです。これは喜んで良いのか難しいですが、コロナ禍のため留学が延期していた高校66期同期のピアニスト石坂奏くと北は札幌から南は熊本まで継続的に演奏活動を展開できた事も本当に嬉しいことでした。

■立高生へのメッセージ



嶋田雄紀 & 石坂奏デュオコンサート
札幌公演 2022年11月19日

これまでに沢山の成功や失敗や、自分でどうすることもできない環境変化など、様々な経験をしてきたかと思えます。中にはそのイベントのその場での感情や考えがマイナスな時もあるかと思えます。しかし、マイナスの出来事が後々の成功に繋がれば、それは正解だったと思えるはずですが。これは反対に、良い結果が必ず後々に正解と思えるとは限らないという事も意味するので少し怖いですが笑。変えられない過去や覆すことのできない所与の条件を、未来の自分が正解だった/良いご縁だったと思えるように、今の自分は前向きに一生懸命やるだけかなと、そのように思います。

皆さんが立川高校に進学したという事実を正解と思えるように願っています。